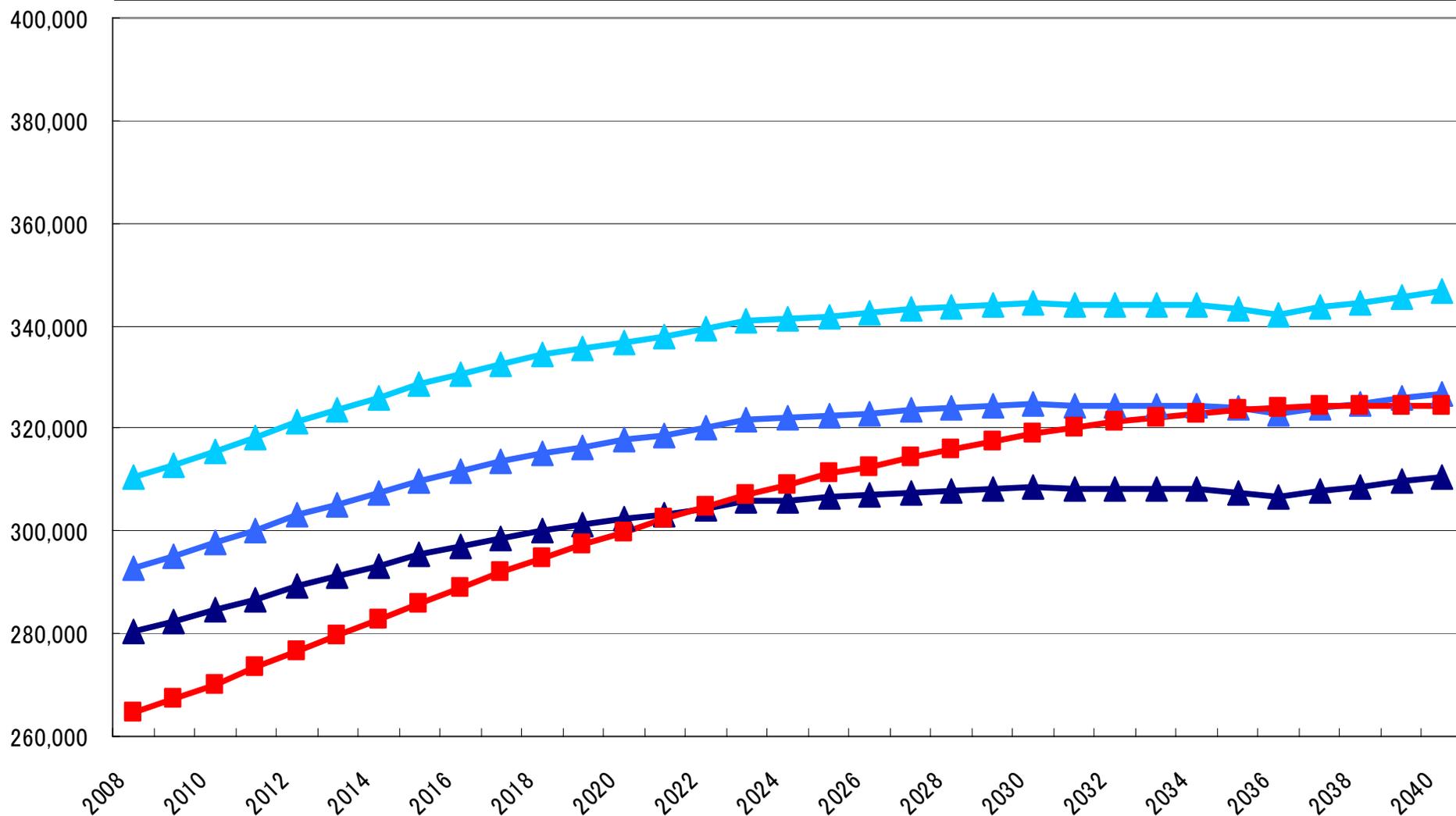


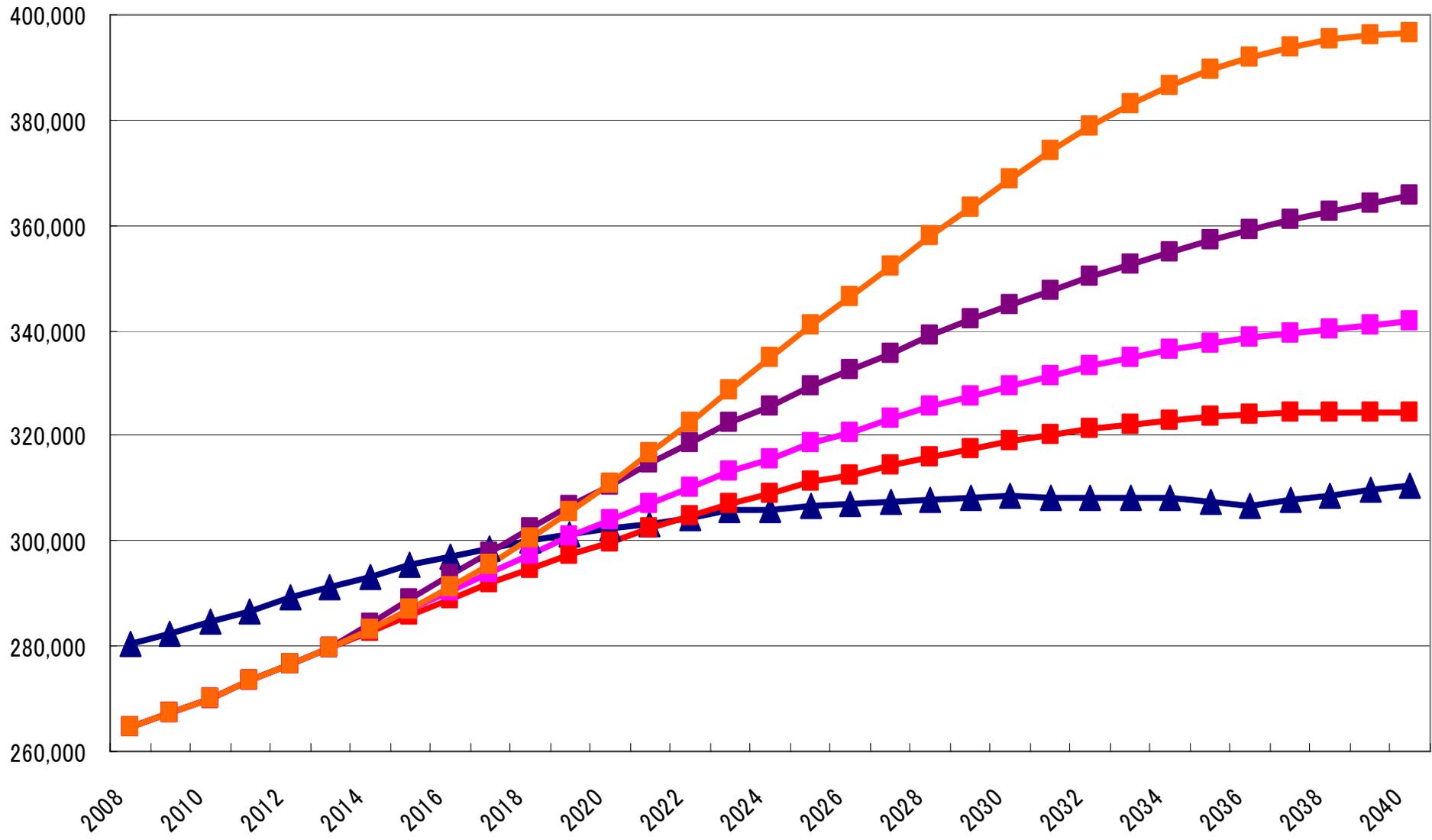
医師需要に関する機械的試算

▲ 需要(48時間)注1
▲ 需要(44時間)注2
▲ 需要(40時間)注3
■ 医師数(定員増なし)注4



医師供給に関する機械的試算

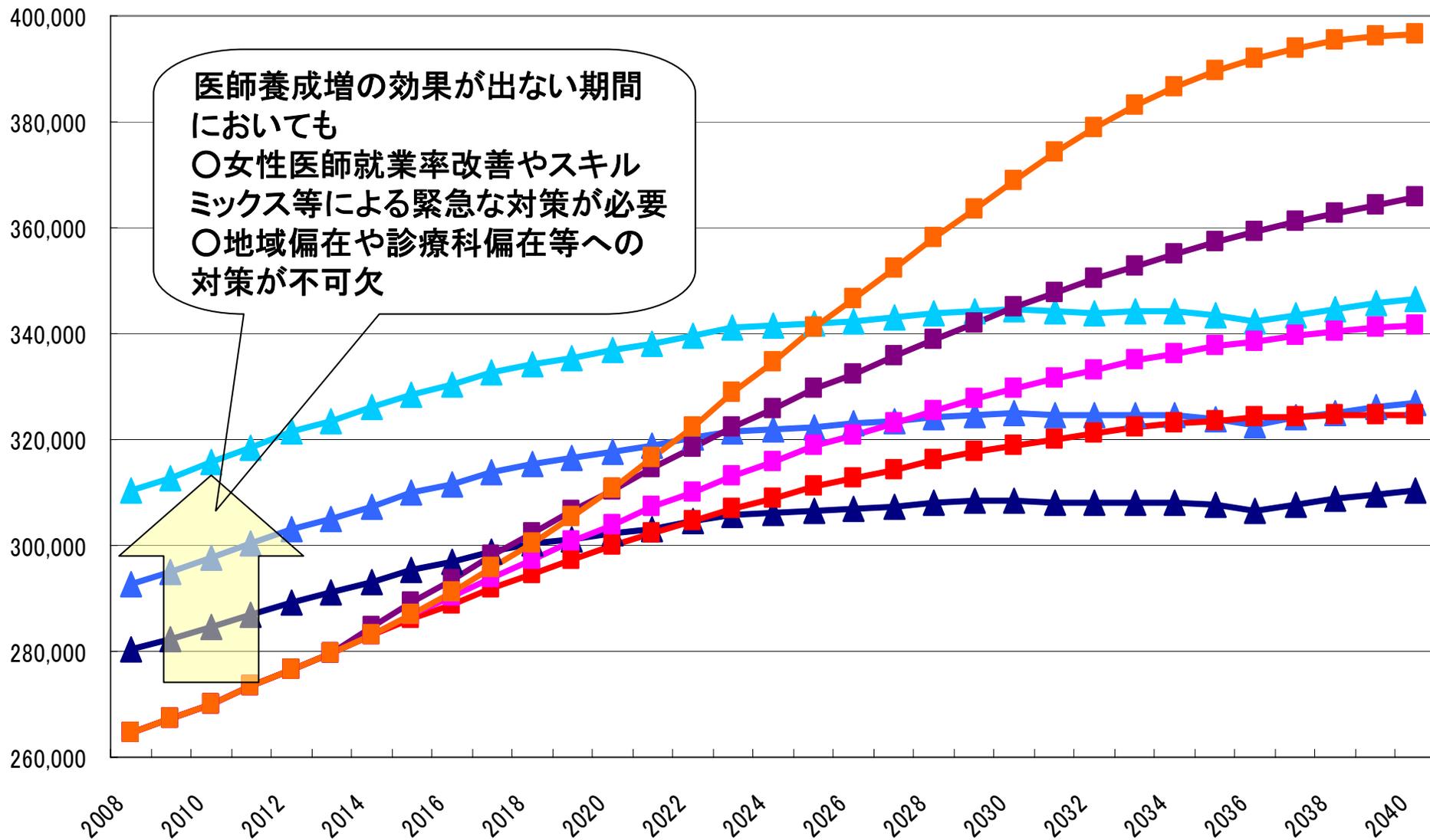
- ▲ 需要(48時間)注1
- 医師数(定員増なし)注4
- 医師数(定員を過去最大)注5
- 医師数(定員2割増)注6
- 医師数(10年で4000人増)注7



出典:「日本の医師需給の実証的調査研究(平成18年報告、主任研究者 長谷川敏彦)」に基づき厚生労働省で機械的に試算

医師の需要と供給に関する機械的試算

- ▲ 需要(48時間)注1
- 医師数(定員増なし)注4
- ▲ 需要(44時間)注2
- 医師数(定員を過去最大)注5
- ▲ 需要(40時間)注3
- 医師数(定員2割増)注6
- 医師数(10年で4000人増)注7



出典:「日本の医師需給の実証的調査研究(平成18年報告、主任研究者 長谷川敏彦)」に基づき厚生労働省で機械的に試算

注釈

注1: 既存の推計で、医師の業務時間(※)の上限を週48時間とした場合(長谷川データ)

注2: 医師の業務時間の上限を週44時間とした場合

注3: 医師の業務時間の上限を週40時間とした場合

注4: 定員数を増員せず、2006年度の7,700人(医学部7,625人+防衛医大75人)を維持した場合(長谷川データ)

注5: 骨太2008を踏まえ、定員数を過去最大の8,360人(医学部8,280人+防衛医大80人)に増員した場合
(2008年は168人増員、2009年より定員数を8,360人に増員)

注6: 定員数を2006年度の医学部定員数7,625人の2割の1,526人増員した場合
(2008年は168人増員、2009年より1,526人増員)

注7: 定員数を毎年400人ずつ増員し、10年かけて4,000人増員し、その後7年間は4,000人増員を維持し、その後毎年400人ずつ減員し、10年かけて4,000人減員した場合(海野委員資料に基づく)

※業務時間とは、医師が医療機関において過ごす時間のうち、診療、教育、他のスタッフ等への教育、その他の会議等の時間であり、休憩時間、自己研修、研究といった時間は除く。

参考(長谷川データについて)

①供給モデル

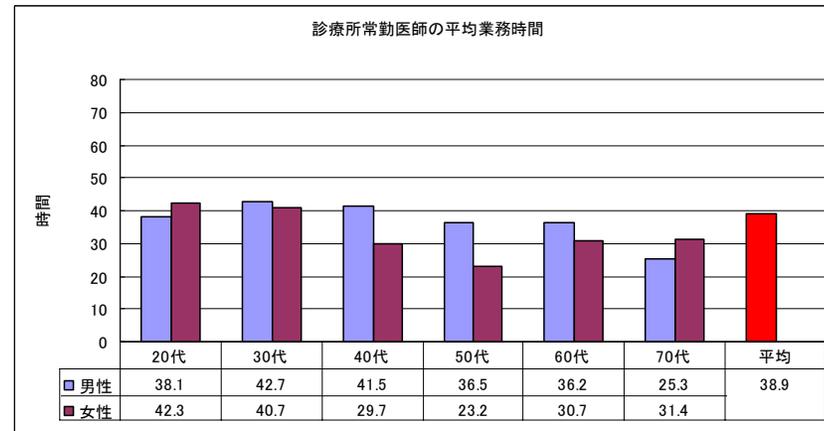
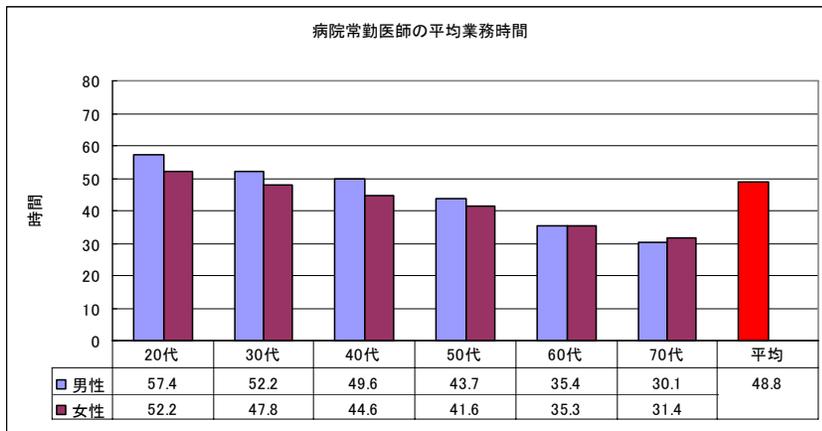
- ・ 定員数: 2006年度の7,700人を基準
(医学部7,625人+防衛医大75人)
- ・ 就業率: 性別、年齢階級別の就業率は、今後も一定として試算
- ・ 女性の割合: 医学部入学者に占める割合(約3割)が今後も一定として試算
(全医師に占める割合は増加すると推定)

②需要モデル

- ・ 今後の高齢化の影響: 年齢階級別の退院回数、受療率、医療費に基づき試算
- ・ 業務時間: 業務時間の上限を週48時間として試算
(平成18年3月、医師需給に係る医師の勤務状況調査より: 回答医師数(病院常勤医師6650人、無床診療所医師473人))
- ・ 非診療医師: 総従事医師の約5%として試算
- ・ 医師の生産性: 今後も一定として試算
(スキルミックス等は勘案せず)

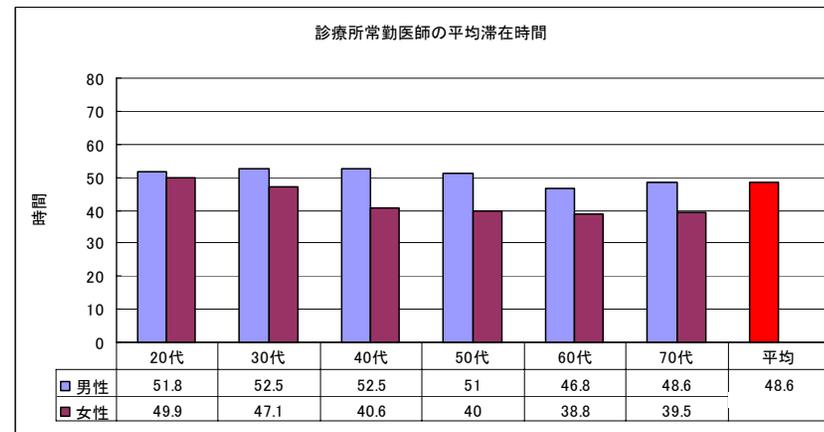
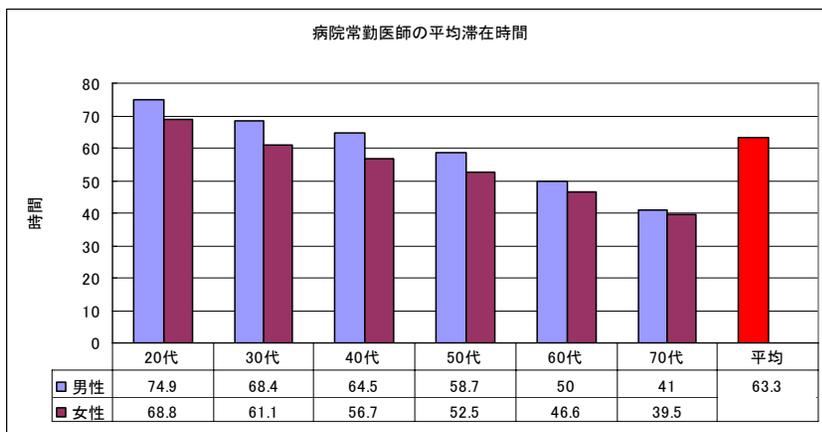
「医師需給に係る医師の勤務状況調査」による医師の勤務時間

業務時間



※業務時間とは、医師が医療機関において過ごす時間のうち、診療、教育、他のスタッフ等への教育、その他の会議等の時間

滞在時間



※ 滞在時間とは、業務時間に加え、休憩時間、自己研修、研究といった時間も含む医療施設に滞在する時間

平成18年3月 医師需給に係る医師の勤務状況調査

回答医師数(病院常勤医師:6650人、無床診療所医師:473人)